

資料

日本国憲法と新聞論調：
憲法記念日社説一覧（1965～1997年）（1）

梶 居 佳 広

簡単な解説

本資料は日本全国の新聞が日本国憲法をめぐる諸問題をどう論じてきたかを調査する準備作業として、憲法記念日（5月3日）社説の題名を列挙した一覧表である。周知のように、日本国憲法は1947年の制定以来一度も改正されていない。しかし、保守政党・勢力による改正（改憲）要求にさらされ続けていたことも事実であり、改憲の是非が戦後日本における一大争点であった。

筆者はこれまで敗戦から「60年安保」前後の論調を調査してきた¹⁾。ゆえに本一覧は「続編」として1965年から1997年までの憲法記念日（5月3日）前後を対象とする。憲法記念日は日本の多数の新聞が憲法に関する話題を社説で取り上げる日となっており、各紙論調を把握するのに便利である。また1965年は戦後20年、1997年は憲法制定50年にあたり、（現在インターネットの普及で長期下落傾向にある）新聞も最盛期であった²⁾。湾岸戦争（1991年）時の国際貢献論を機に再び改憲論が高揚するまで、憲法（少なくとも改憲）論議は相対的に沈静化していたとされるが、「二極化する全国紙（朝日と毎日が護憲、読売、産経が改憲）」「大多数が護憲の地方紙」といわれる構図が形成された時期でもあり軽視できない。

本一覧は、戦後25年・沖縄返還・日中国交回復という戦後日本にとって一大転機となった出来事があった1972年の時点で部数5万以上あった日本新聞協会加盟新聞（表1参照³⁾）を対象とするが、部数を基準に3回に分けて掲載する予定である。今回はいわゆる全国紙5紙と部数20万部以上の地方紙を取録対象としているが、地方紙は各地域を代表する有力新聞ばかりである。なお『東京新聞』は1967年『中日新聞』に吸収（中日新聞東京本社）されるが、1970年代までは別内容の社説、また同一文章だが題名・見出しが『中日新聞』と異なるケースがみられる。また『静岡新聞』は厳密には社説がなく、論説の役割を果たしていた「東京だより」「論壇」を紹介することにした。

本一覧は社説の題名（見出し）を並べただけであるから、社説の詳細はもちろん本文を読む必要がある。ただ題名を並べただけでも各紙のスタンスが漠然とはあるが把握できるように思う。今回収録した新聞についていえば、1960年代の『産経新聞』や1970年代後半～80年代前半の『新潟日報』を除いてほぼ毎年憲法記念日に憲法を社説で取り上げている（憲法を社説で取り上げなかった場合、一覧では×と表記）。1960、70年代は憲法が定着したか否かの問いかけ、1980年代は憲法

軽視や「なし崩し」の批判，1990年代にはいると国際貢献を契機とした論議の活性化を求める社説が目立っているが，1970年代前半は第9条以外の論点が多いことも注目すべきであろう。戦後25年＝1970年頃は全新聞が護憲ないし改憲慎重論であったが，全国紙では『産経新聞』『読売新聞』，地方紙では『北国新聞』が1990年代に改憲論に転換している。このうち『産経新聞』は制定30年＝1976，77年の頃から憲法論議の活性化や見直しの必要性を訴えるようになり1993年記念日で明確に改憲を主張。また『読売新聞』が，湾岸危機以降，主として第9条見直しの主張を展開するようになった（1994年11月3日，独自の改憲試案を提起）。地方紙では，1970年代までは改憲慎重ないし護憲論であった『北国新聞』が1990年に論調を転換，翌年改憲を主張するようになる。なお地方紙では『静岡新聞』の外部寄稿が1960年代から改憲，というか護憲派批判⁴⁾が目立つが，1990年代になって「押しつけ」理由の改憲を改めて主張するようになった。一方で戦後50年＝1995年前後から，護憲ないし改憲慎重と目される新聞（『朝日新聞』『毎日新聞』『北海道新聞』『中日新聞』『西日本新聞』『信濃毎日新聞』）を中心にシリーズないし連載社説を公表され，人権や統治を含めた多様な論点が提示されている。従って，4月末から5月中旬にかけての憲法に関するシリーズ・連載型社説は全て掲載することにした。

今回は部数12.5万以上の地方紙の社説を紹介する予定である。

注

- 1) 梶居佳広「1950年代改憲論と新聞論説（1952～1957年）：地方紙を中心に（1）（2・完）」（『立命館法学』第343号，第344号。いずれも2012年），同「岸内閣期の憲法論議—全国・主要地方紙社説をてがかりに」（『メディア史研究』第44号，2018年）など。なお，今回対象とする時期についても一度検討したことがある。（『日本国憲法をめぐる主要紙論調—憲法記念日社説を中心に（1965～1997年）—』『年報 日本現代史』第24号，2019年）
- 2) 1997年は現時点で日本全国の新聞部数がピークに達した年でもある。
- 3) ただし『防長新聞』は5万部未満であるものの，戦時体制の一県一紙で発足した県紙であるため，例外的に収録する（『滋賀日日新聞』『和歌山新聞』は同様に県紙であるが，社説自体がなくなっている）。
- 4) 『静岡新聞』について，1970年代まで「東京だより」「論壇」の中心的人物であった高山岩男は京都学派の著名な哲学者。また1990年代「占領憲法の改正」をたびたび主張した江尻進は戦時中同盟通信ベルリン支局長で，戦後の一時期共同通信の論説委員として配信論説を多数執筆している。その中には当時ちょうど制定過程にあった日本国憲法を肯定的に評したものも当然含まれる。

表1 日本新聞協会加盟新聞 (1972年)

全国紙		中部地方	
朝日新聞	6,223,824	中日新聞	2,166,972
読売新聞	6,079,384	静岡新聞	430,421
毎日新聞	4,818,924	新潟日報	345,738
産経新聞	1,960,304	信濃毎日新聞	280,757
日本経済新聞	1,442,574	北國新聞	238,749
		北日本新聞	162,941
		福井新聞	126,897
北海道地方		名古屋タイムス	117,200
北海道新聞	790,757	山梨日日新聞	116,232
北海タイムス	161,680	岐阜日日新聞	114,312
室蘭民報	47,795	伊勢新聞	88,100
釧路新聞	43,097	南信日日新聞	55,194
十勝毎日新聞	32,132		
苫小牧民報	31,150		
		近畿地方	
東北地方		神戸新聞	410,791
河北新報	321,656	京都新聞	405,231
東奥日報	167,347	大和タイムス	69,800
秋田魁新報	164,852	滋賀日日新聞	40,000
福島民報	162,611	夕刊京都	36,562
山形新聞	153,800	(大阪)	
岩手日報	145,954	大阪新聞	175,247
福島民友新聞	115,748	大阪日日新聞	76,300
デーリー東北	64,490	新大阪新聞	?
陸奥新報	?	関西新聞	?
石巻新聞	5,000	新関西新聞	?
		中国地方	
関東地方		中国新聞	402,269
神奈川新聞	177,866	山陽新聞	300,718
下野新聞	136,651	島根新聞	75,000
上毛新聞	90,561	岡山日日新聞	56,177
茨城新聞	87,531	日本海新聞	54,720
千葉日報	82,152	防長新聞	36,000
栃木新聞	53,671	山口新聞	?
埼玉新聞	?		
(東京)		四国地方	
東京新聞 (中日新聞東京本社)		愛媛新聞	167,272
東京タイムズ	?	高知新聞	154,932
		徳島新聞	154,221
		四国新聞	125,398
		新愛媛	?

九州地方

西日本新聞	629,002
南日本新聞	220,513
熊本日日新聞	179,941
長崎新聞	141,956
大分合同新聞	141,457
宮崎日日新聞	131,712
沖縄タイムス	122,639
フクニチ	121,476
佐賀新聞	92,393
琉球新報	85,128
鹿児島新報	58,512

1965～1972年以前に廃・休刊ないし協会退会

毎夕新聞（1966～1967年）
山梨時事新聞 （1969年4月解散＝山梨日日新聞に吸収）
信陽新聞（1967年2月解散）
大阪新夕刊（1967年1月休刊）
兵庫新聞（1968年6月 業務停止）
新九州新聞（1968年11月休刊）
長崎時事新聞（1968年9月解散）
内外タイムス（1972年11月除名）
和歌山新聞（1972年11月休刊）

(注記)

1. 囲んでいる新聞は「一県一紙」で創刊された県紙。
2. 『南信日日新聞』は『長野日報』、『岐阜日日新聞』は『岐阜新聞』『大和タイムス』は『奈良新聞』、『鳥根新聞』は『山陰中央新報』に現在新聞名を変更している。
3. 『栃木新聞』『東京タイムズ』『名古屋タイムズ』『滋賀日日新聞』『夕刊京都』『新大阪新聞』『関西新聞』『新聞西新聞』『岡山日日新聞』『防長新聞』『新愛媛』『フクニチ』『鹿児島日報』は現在休刊ないし廃刊。
4. 各紙部数は1972年11月の月間平均（『日本新聞協会年鑑』1973年版、日本新聞協会、1973年）

1972年5月以降 日本新聞協会加盟

北羽新報（1974年9月～）
荘内日報（1973年7月～）
米沢新聞（1980年11月～）
常陽新聞（1972年10月～）
日刊福井（1978年9月～）
東愛知新聞（1980年6月～）
紀伊民報（1973年10月～）
宇部時報（1976年3月～）
出雲新聞・鳥根日日新聞（1993年4月～）
南海日日新聞（1976年9月～）
八重山毎日新聞（1990年6月～）
宮古毎日新聞（1995年4月～）

憲法記念日社説題名一覧（1965～1997年）(1)

全国紙

朝日新聞

- 1965年 今こそ平和憲法の精神を
 1966年 日本の防衛と憲法の理想
 1967年 憲法二十年の歩みに思う
 1968年 平和主義に徹せよ
 1969年 戦後の民主主義と憲法
 1970年 深刻な試練に直面する平和憲法
 1971年 憲法の直面する三つの問題
 1972年 「知る権利」は考える
 1973年 「公共の福祉」は前進する
 1974年 「平和を欲せば正義を培え」
 1975年 自主外交への取り組み方
 1976年 憲法制定三十年に思う
 1977年 日本国憲法と土地財産権
 1978年 憲法と最高裁判決の限界
 1979年 右旋回の中の憲法
 1980年 「平和のこま」をどう回すか
 1981年 「憲法記念日」の重み
 1982年 政治を語ろう今こそ
 1983年 日本人の「優しさ」とは何か
 1984年 歴史の反省と地球的視野
 1985年 「会社人間」のおくる憲法論
 1986年 女性と長寿と憲法と
 1987年 「豊かな憲法」めざして
 1988年 国際化時代の日本国憲法
 1989年 繁栄の中の主権在民を問う
 1990年 平和憲法と国際秩序づくり
 1991年 平和憲法と国際的貢献
 1992年 歴史の潮流にそう平和主義
 1993年 憲法論争に何が欠けているか
 1994年 （3日）共に47歳。憲法と憲法君 戦後50年 明日を求めて
 （4日）「三酔人」が憲法を語る 戦後50年 明日を求めて
 （5日）憲法はまだまだこれからだ 戦後50年 明日を求めて
 1995年 社説特集「国際協力と憲法」
 提言1 国際協力法の制定を
 提言2 平和支援隊をつくれ
 提言3 9条は改定しない
 提言4 自衛隊を改造する
 提言5 冷戦型安保の脱却を
 提言6 国連改革の先頭に
 1996年 集団的自衛権論の迷走 憲法49歳の記念日に
 1997年 （4月30日）会社と向き合う個人に 憲法50年と日本の改革 上
 （5月2日）動き出した市民主権 憲法50年と日本の改革 中
 （5月3日）「国際平和」の構想力 憲法50年と日本の改革 下

毎日新聞

- 1965年 憲法を読み、かつ考えよう

- 1966年 憲法論争と安全保障
 1967年 “成人” 憲法に理性的態度で
 1968年 安全保障に共通の広場を一憲法記念日に当たって一
 1969年 現実の定着と当面の課題一憲法記念日に当たって一
 1970年 憲法をめぐる今日的課題
 1971年 政治機構における国会の責任一憲法記念日に当たって考える一
 1972年 憲法を現実政治のなかで考える一施行二十五周年に当たって一
 1973年 ×
 1974年 「社会的公正」の実現をめざせ一憲法記念日に当たって一
 1975年 憲法解釈に合意の芽を育てよう
 1976年 憲法記念日に思う
 1977年 憲法記念日に参院を考える
 1978年 政治は憲法の軌道を外れるな一「第九条」と地方分権を考える
 1979年 保守化のなかの憲法記念日
 1980年 （2日）不戦平和の誓いを新たに一憲法記念日を前に考える一
 1981年 平和憲法と経済大国の役割一世界に寄与する道を考える時一
 1982年 平和憲法に誇りを持つ一世界に軍縮リードできる一
 1983年 あしき現実主義が平和を乱す一憲法秩序と日米安保の変質一
 1984年 歯止めなき危険な拡大解釈一憲法の理念を正しく生かそう一
 1985年 憲法と国会の権威を考える
 1986年 憲法の本質と同日選挙論議
 1987年 憲法四十周年と日本の責任
 1988年 （3日）「名誉ある地位」を築くために（上）
 （4日）「名誉ある地位」を築くために（下）
 1989年 議会制民主主義を守るには
 1990年 議会政治再生のために一問い直すべき「一票の格差」
 1991年 試練の平和憲法を考える 戦争放棄の理想をどう実現するか
 1992年 平和憲法に強じん性を一「名誉ある戦争放棄」のために
 1993年 憲法 冷戦後こそ真価を発揮一行動が伴う平和主義を
 1994年 憲法 現実との乖離をどう克服するか 不戦の理念に肉付けを
 1995年 （3日）いま、憲法は「あいまいな日本」の傷口 現実の“塩”がすりこまれる
 （4日）いま、憲法は 様変わりした改憲論議 護憲派は今こそ声を大に
 （5日）いま、憲法は 理念の体現化に汗を「古い」の時期を見据えて
 1996年 （2日）憲法50年1 新たな使命が生まれた一21世紀にも通用する理念
 （3日）憲法50年2 平和とは「つくる」もの一独自の国際活動を編み出せ
 （4日）憲法50年3 官僚の「主客転倒」を正せ一司法に期待したい牽制機能
 （5日）憲法50年4 開かれた企業社会を 強すぎる会社主義、弱い個人
 （6日）憲法50年5 人権の充実はこれから「連帯の輪」で福祉向上を
 1997年 （4月26日）憲法施行50年 行き詰った疑似システム一国民主権
 （4月28日）憲法施行50年 国民と離れた姿勢を憂える一司法
 （4月29日）憲法施行50年 環境 条文に魂入れる作業こそ
 憲法施行50年 報道 「ための自由」に応えたい
 （4月30日）憲法施行50年 教育 自由と分権に再び挑戦を
 （5月1日）憲法9条を考える 1 平和主義 地球鎖国時代を生きる知恵
 （5月2日）憲法9条を考える 2 いまこそ必要な自制一集団的自衛権
 （5月3日）憲法9条を考える 3 新しい世界主義を求めて一平和戦略
 （5月5日）憲法施行50年 「公僕」実現の好機を逃がすな一官僚
 （5月7日）憲法施行50年 震災が問う生存権の内実
 （5月8日）憲法施行50年 職場に自由な人間関係を
 （5月9日）憲法施行50年 まともな「住」への第一歩を

（5月10日）憲法施行50年 平等で風通しよい家族に

読売新聞

- 1965年 憲法記念日に寄せて
- 1966年 憲法精神と日本の現実
- 1967年 憲法施行二十年に思う
- 1968年 根をおろした平和憲法
- 1969年 憲法の理想と国民生活
- 1970年 二十三歳になった平和憲法
- 1971年 24回目の憲法記念日を迎えて
- 1972年 第25回憲法記念日に当たって
- 1973年 第二十六回憲法記念日に思う
- 1974年 憲法理念と日本の不安定な現実
- 1975年 憲法記念日に当たって思うこと
- 1976年 政治家こそ憲法の精神を守れ
- 1977年 第二世代に入った憲法の課題
- 1978年 国際社会の中での憲法の理念
- 1979年 うごめく明治憲法的発想
- 1980年 憲法をめぐる三つの課題
- 1981年 問われる憲法の「平和」と「自治」
- 1982年 改めて司法の責務を考える
- 1983年 憲法を読もう
- 1984年 節度が支える「表現の自由」
- 1985年 「法の下での平等」を軽くみるな
- 1986年 身近な憲法問題を見つめよう
- 1987年 （2日）憲法と議会制民主主義を考える
- 1988年 互いに認め合う人権の大切さ
- 1989年 政治に問われる憲法の初心
- 1990年 憲法が求める世界への貢献
- 1991年 国際貢献に多面的な憲法論議を
- 1992年 国際責任と憲法を考える
- 1993年 憲法論議も新時代を迎えた
- 1994年 クールに憲法を語り合おう
- 1995年 戦後50年を超えて 建設的安保論議へ転換の時
- 1996年 （3日）内閣・行政機構改革への提言 「責任政治」の確立を目指して
（4日）「有事」論議になぜ消極的なのか
- 1997年 憲法施行50年 21世紀を展望した改正論議を

日本経済新聞

- 1965年 憲法記念日に政治充実を考えよう
- 1966年 憲法理解を充実させよう
- 1967年 憲法二十年の歩みのなかで
- 1968年 憲法が示すきびしさと戒め
- 1969年 憲法を真に生かすために
- 1970年 憲法秩序とナショナリズム
- 1971年 憲法への現実的適応を心せよ
- 1972年 憲法精神の積極的理解と現代化を
- 1973年 憲法精神の創造的適応へ能力発揮を
- 1974年 福祉小国から早急に脱却しよう
- 1975年 憲法精神の定着と転換期への対応

- 1976年 ロッキード事件さ中の憲法記念日
- 1977年 憲法価値の定着と今後の課題
- 1978年 憲法価値の定着に必要なものは
- 1979年 平和と豊かさの代償を考えると
- 1980年 憲法と国防意識
- 1981年 声高な改憲論と世論
- 1982年 戦争体験は日本人だけのものではない
- 1983年 中曽根首相の改憲論議と民意の壁
- 1984年 定着した憲法意識の後に来るもの
- 1985年 定数は正で問われる政府の憲法感覚
- 1986年 憲法記念日に国際的役割を考える
- 1987年 憲法が教える国際化時代に生きる道
- 1988年 日本社会の安定要因としての憲法／「言論の自由」で考える
- 1989年 リクルート事件の中の憲法記念日
- 1990年 「憲法の番人」としての最高裁の役割
- 1991年 憲法をいかして、世界に貢献しよう
- 1992年 ×
- 1993年 改憲の前にやるべきことは多くある
- 1994年 ×
- 1995年 低くなった国境が迫る憲法の課題
- 1996年 国会は国政の中心になっているか
- 1997年 憲法を存分に使いこなす時代に来た

産経新聞

- 1965年 憲法記念日に想う 制度よりも運用を考えよ
- 1966年 ×
- 1967年 憲法の理想と現実
- 1968年 ×
- 1969年 ×
- 1970年 (主張) 自由を守る旗手たれ 「憲法記念日」に訴える
- 1971年 (主張) 憲法と現実の課題 国民の英知で運用せよ
- 1972年 (主張) 憲法を真に生かす道 理想と現実の調和考えよ
- 1973年 (主張) 憲法の理想活かす道 現実に即した解釈運用を
- 1974年 (主張) 憲法論議を深めよう 明日の日本展望しつつ
- 1975年 (主張) 政争離れた憲法論議を
- 1976年 (主張) 新時代を迎える憲法 制定過程の見直しを
- 1977年 (主張) 必要な憲法常識の成熟 平和主義は「無抵抗」でない
- 1978年 (主張) 法無視が改憲論を生む 育てたい憲法理解の熟成
- 1979年 (主張) 常にいたわりの心を 権利と自由へ憲法の戒め
- 1980年 (主張) 憲法論議の功罪を問う 国の安全あつての憲法
- 1981年 (主張) 憲法記念日に思うこと 曲り角にきた憲法論議
- 1982年 (主張) 憲法の功罪を論ずべし
- 1983年 (主張) 憲法論議をより深めよう
- 1984年 (主張) 憲法が保障する人権とは
- 1985年 (主張) 新「憲法調査会」を提言する
- 1986年 (主張) 若者たちの憲法論議望む
- 1987年 (2日) (主張) 憲法四十歳と言論の自由
- 1988年 (主張) “隠れミノ憲法” 施行を排す 今こそ国際責務に直面を
- 1989年 (主張) 象徴天皇を考える憲法記念日
- 1990年 (主張) 政教分離と成熟した憲法感覚

- 1991年（主張）憲法は“不磨の大典”か 臨調方式で国民論議を尽くせ
 1992年（主張）日本国民の憲法観を問う 議論を封じて何を守るのか
 1993年（主張）世界に向けて日本の理念を 憲法改正へ国民は歩み始めた
 1994年（主張）平和のためにこそ改憲を 北朝鮮核は“ダモクレスの剣”
 1995年（3日）（主張：憲法を考える）真の「自立」へ改憲を 第二の敗戦—再生の道
 （4日）（主張：憲法を考える）首相に「非常大権」を 現行憲法では対応しきれぬ
 （5日）（主張：憲法を考える）実情にそぐわない九条 自衛隊の存在を明記せよ
 （8日）（主張：憲法を考える）集団的自衛権を明示せよ “国連多国籍軍”へも参加必要
 （9日）（主張：憲法を考える）天皇制と国民主権 はびこる俗流国民主権
 （10日）（主張：憲法を考える）憲法改正は国会の責務 政治家は「隗より始めよ」
 1996年 限界にきた「なし崩し改憲」綻びを改める勇気と英知を
 1997年 憲法施行50年 見直し機運高めた政治・社会状況

地方紙

1. 50万部以上

北海道新聞

- 1965年 国民の自覚が憲法を守る
 1966年 憲法第九条は死滅したのか
 1967年 新たな挑戦の前に立つ憲法
 1968年 積極的な“護憲”のために
 1969年 沖縄の祖国復帰と憲法
 1970年 憲法をめぐる今日的課題
 1971年 新憲法の原点に立ち返れ
 1972年 憲法記念日に言論の自由を思う
 1973年（1日）官公労働者に労働基本権を
 （3日）人権をわれらの手に
 1974年 護憲の自覚をあらたに
 1975年 憲法感覚をとぎすませ
 1976年 国民主権は生かされているか
 1977年 憲法定着を願うもの阻むもの
 1978年 憲法を踏みにじる右寄り風潮
 1979年 「地方の時代」と憲法
 1980年（2日）声高な防衛論議と平和憲法
 1981年 いまこそ憲法の効用を見直そう
 1982年 反核・軍縮こそ憲法の原点
 1983年 改憲封じに平和戦略の確立を
 1984年 憲法は戦没者の尊い遺産
 1985年 理念と現実の落差埋めるためには
 1986年 問われる議会制民主主義
 1987年 風圧の中の憲法とその定着
 1988年 憲法をより成熟させるためには
 1989年 いまこそ国民主権の政治を
 1990年（3日）自由脅かす動きに目を向けよう
 （4日）日本も真剣に軍縮を考える時
 1991年 平和憲法を変質させないために
 1992年 これでいいのか、憲法の論じ方
 1993年 「憲法九条の今」を見据えよう
 1994年 今、憲法から国際貢献を考える
 1995年（1日）戦争への反省こそ原点だ 憲法を「冷戦後」に生かす道

- (2日) 抜本改革で国連新時代を 憲法路線の具体化が不可欠
 (3日) アジア安保の構想描く時 自衛隊は専守防衛を基本に
- 1996年 (1日) 平和の理念をどう生かすか 「守る」だけの時代から脱却を (沖縄から憲法を考える)
 (2日) 住民無視の行政体質を問う 子供と女性の人権回復を急げ (沖縄から憲法を考える)
 (3日) 国に従属する時代ではない 南から吹く自治の風を生かせ (沖縄から憲法を考える)
 (4日) 各党は本音の安保論議尽くせ
- 1997年 (1日) 憲法施行50年 立法府の再生こそが急務だ ひそむ「翼賛」の危険な芽
 (2日) 憲法施行50年 国民に最も身近な司法に 番人の自覚足りぬ 最高裁
 (3日) 憲法施行50年 地方分権で行政を変えよう 深まる官僚主導のゆがみ

中日新聞

- 1965年 憲法を見つめて
- 1966年 (3日) 平和憲法と日本の安全
 (5日) 社党“安保構想”の意義
- 1967年 『憲法二十年』に思う
- 1968年 憲法を定着させる時 理想と現実を見つめて
- 1969年 憲法意識を確かめる時 初心に帰って現状を見よう
- 1970年 (3日) 七〇年代と憲法の精神
 (5日) 裁判官と思想の自由
- 1971年 憲法状況を見つめる時
- 1972年 憲法の四半世紀に思う
- 1973年 憲法状況に交錯する明暗
- 1974年 不安定の時代と憲法精神
- 1975年 憲法状況をめぐる光と影
- 1976年 憲法を身近に生かすために
- 1977年 憲法精神を全体的に生かせ
- 1978年 日本国憲法の理想と現実
- 1979年 憲法精神と政治と倫理
- 1980年 (2日) 防衛論争の前に考えよ
- 1981年 理想に向かう現実 (週のはじめに考える)
- 1982年 平和憲法を生かす道
- 1983年 36歳『平和憲法』(週のはじめに考える)
- 1984年 憲法を新しい時代に生かす道
- 1985年 『憲法の理想』へ行動を
- 1986年 『三十九歳』の憲法記念日
- 1987年 国際国家の平和憲法
- 1988年 『41歳の憲法』への思い
- 1989年 新時代に憲法を生かせ
- 1990年 憲法は“空気”ではない
- 1991年 憲法を「制約」でなく
- 1992年 45歳憲法とマチズモ (週のはじめに考える)
- 1993年 憲法は「古い上着」か
- 1994年 (3日) 「普通の国」を超えて 憲法記念日に考える (上)
 (4日) “輝き”はどちらに 憲法記念日に考える (下)
- 1995年 (1日) 「風船」よ高く飛んで 憲法記念日に考える ①
 (2日) 苦難の行路に挑むとき 憲法記念日に考える ②
 (3日) 政治、三つの空洞化 憲法記念日に考える ③
 (4日) 平和のため「戦争」語れ 憲法記念日に考える ④
 (5日) “輝き”を増すために 憲法記念日に考える ⑤
- 1996年 改めて「主権在民」憲法記念日に考える

- 1997年（4月28日）「徳の国」へ理想の火を 憲法施行50年に考える ①
 （4月29日）円滑な「安保」のために 憲法施行50年に考える ②
 （4月30日）「言論の府」再生への道 憲法施行50年に考える ③
 （5月1日）働くものの権利って？ 憲法施行50年に考える ④
 （5月2日）問われる「首相の権限」 憲法施行50年に考える ⑤
 （5月3日）国民の意識も変わった 憲法施行50年に考える ⑥
 （5月5日）親の願いと子の思い 憲法施行50年に考える ⑦
 （5月7日）司法権優越という幻想 憲法施行50年に考える ⑧
 （5月8日）住民投票を見直そう 憲法施行50年に考える ⑨
 （5月11日）雄を知りて雌を守る 憲法施行50年に考える ⑩
 （5月12日）「自助・自立」の社会へ 憲法施行50年に考える ⑪
 （5月18日）知の世界の活性化を 憲法施行50年に考える ⑫

補足：東京新聞（＝中日新聞東京本社）

- 1965年 「日本国憲法」と政治の現実
 1966年（2日）“国民的合意”の基礎は何か
 （3日）国民主権の意味するもの
 1967年 憲法二十年と今後の問題
 1968年 憲法論の“虚構と真実” 改憲問題は次代に任せよう
 1969年（中日新聞社説と同じ）
 1970年（3日）新しい国家像の確立を
 （5日）（中日新聞社説と同じ）
1971年以降、中日新聞と同じ社説。但し、以下の年は題名が異なる
 1973年 憲法精神を成熟させよ
 1974年 憲法精神を伸張させよ
 1975年 憲法状況にみる光と影
 1976年 憲法を身近で生かそう
 1977年 憲法を全体的に生かせ
 1978年 憲法理想と現実の直視
 1981年 理想に向けての現実（週のはじめに考える）
 1983年 36歳『平和憲法』の自覚

西日本新聞

- 1965年 憲法における一つの読み方
 1966年 憲法の平和主義と安全保障
 1967年 憲法施行二十周年を迎えて
 1968年 ×
 1969年 『沖繩問題』処理の核—憲法記念日にちなんで—
 1970年 70年代日本と軍国主義—『憲法記念日』に考える—
 1971年 憲法を国民の血と肉とに—国民主権と平和と人権と—
 1972年 憲法理念の空どう化を憂う—この政治の現実を見直そう—
 1973年 憲法と政治と現実との間—国民の要求に活眼を開け—
 1974年 憲法理念を遠ざかる政治—権力をひざまずかせよ—
 1975年 憲法感覚を研ぎすませ—暮らしへの定着めざし—
 1976年 主権在民を空洞化させるな
 1977年 与野党伯仲時代と憲法運用
 1978年 憲法論議をひずませたもの
 1979年 “戦後”は守るに値しないか
 1980年 憲法生かす新平和構想を
 1981年 新たな段階迎えた憲法論議

- 1982年 改憲の動きに警戒強めよう
 1983年 参院選で憲法問題を避けるな
 1984年 国民生活の中で憲法を考える
 1985年 憲法は「民族の歴史」の所産だ
 1986年 見過ごせぬ国会の憲法軽視
 1987年 暮らしの憲法感覚育てよう
 1988年 暮らしの変化と憲法の役割
 1989年 地方自治は民主主義の学校
 1990年 憲法でアジアと交わる
 1991年 憲法を本音で論じる時がきた
 1992年 憲法を国際社会で生かす道は
 1993年 日本と世界の将来像を考えて
 1994年 憲法論議は受け身を脱して
 1995年 (1日) 憲法重視はにじんんでいるが
 (3日) 憲法は「床の間の天井」ではない
 1996年 憲法を空っぽにしてはならない
 1997年 (1日) ギャップを埋める努力こそが 憲法50年 その理念と現実
 (2日) 沖縄の問いかけにどうこたえる 憲法50年 その理念と現実
 (3日) 地方自治の実現に確かな一歩を 憲法50年 その理念と現実
 (4日) 貴重な自然が失われていく 憲法50年 その理念と現実
 (5日) 「共生」求められる多国籍社会 憲法50年 その理念と現実
 (7日) 政治の場にみる男女の平等は 憲法50年 その理念と現実
 (9日) 「生存権」は保障されているか 憲法50年 その理念と現実
 (12日) 「官僚支配」から脱却できるか 憲法50年 その理念と現実
 (13日) 民主主義を深める「知る権利」 憲法50年 その理念と現実

2. 20万部～50万部

河北新報

- 1965年 憲法問題と時代の流れ
 1966年 (3日) 「平和憲法」は定着したか
 (4日) 空疎な社会党の安保構想
 1967年 成年を迎えた『平和憲法』
 1968年 地方自治を強化しよう—憲法記念日に寄せて—
 1969年 ×
 1970年 ×
 1971年 憲法をもう一度考えよう—高い理想を实践する義務—
 1972年 憲法を精神を生かす努力—四半世紀の記念日を迎えて—
 1973年 憲法の理念は定着したか—第26回記念日に当たって—
 1974年 民主、平和の原点に徹せよ—違憲事例は何を意味するか—
 1975年 憲法は身近なもの—第二十八回記念日に考える—
 1976年 国会の憲法責任も—憲法記念日に問われるもの—
 1977年 内側からの理解を—三十年目の憲法と地方自治法—
 1978年 憲法の原点に立て—揺れ動く平和、人権—
 1979年 理念生かす努力を—三十二回迎えた憲法記念日—
 1980年 厳しさを直視せよ—憲法記念日を迎えた決意—
 1981年 国民の身近なものに—憲法記念日の意義考えよう
 1982年 重み増す経済協力—平和憲法の理念と日本の進路
 1983年 平和主義の堅持を—高まる憲法改正論議の中で
 1984年 理念と現実の落差—憲法記念日に考えたいこと
 1985年 視野広げた運動を—憲法記念日を意義ある休日に

- 1986年 問われる憲法感覚—「風化」を止めるものは何か
 1987年 理念生かす努力—四十年を経た日本国憲法
 1988年 ×
 1989年 問い直される憲法—国民一人ひとり自覚と責任を
 1990年 国際化社会と憲法の本質
 1991年 あらしの前に立つ平和憲法
 1992年 不平等は正は「一票」から
 1993年 広い視野に立つ憲法論議を
 1994年 世界平和に役立つために
 1995年 憲法論議を一層深めよう 時代にあった姿を模索して
 1996年 不当な侵害のない社会を 揺らぐ憲法の基本的人権
 1997年 (1日) 非軍事的貢献を追求しよう 冷戦去って揺らぐ平和主義（憲法施行50年）
 (2日) 人間尊重の精神はどこに 軽視される弱者の「生存権」（憲法施行50年）
 (3日) 弾力的解釈でこたえよ 時代が求める「新しい権利」（憲法施行50年）

新潟日報

- 1965年 (2日) あすは憲法記念日
 (7日) もっと憲法を勉強しよう
 1966年 選挙と連休の中の憲法
 1967年 政治色なき憲法論争を
 1968年 (1日) 憲法意識調査・一つの解釈
 (2日) 公共の福祉を考えよう
 1969年 (4日) 平和憲法は安泰なのか
 1970年 (4日) 憲法意識を洗い直そう
 1971年 だれのための憲法なのか
 1972年 憲法記念日を迎えて
 1973年 (1日) 自衛隊に国民合意の努力を
 (3日) 憲法記念日を迎えて思う
 1974年 試練に立つ二十七周年の憲法
 1975年 ×
 1976年 憲法公布三十周年を迎えて
 1977年 三十歳を迎えた「日本国憲法」
 1978年 ×
 1979年 ×
 1980年 ×
 1981年 ×
 1982年 ×
 1983年 憲法の基本原理は譲れない
 1984年 平和憲法をなし崩しにするな
 1985年 危機に立つ三十八歳の憲法
 1986年 政界の憲法軽視の傾向を懸念
 1987年 不惑の年を迎えた平和憲法
 1988年 許せない憲法理念のなし崩し
 1989年 ×
 1990年 ×
 1991年 国際社会への貢献と平和憲法
 1992年 消えた「集い」が残したもの
 1993年 改憲論議に必要な歴史的視点
 1994年 「不戦憲法」を転換期の道標に
 1995年 (1日) いま一度、憲法の原点に（戦後50年）

- (2日) 憲法を変えるべきときか（戦後50年）
 (3日) 平和憲法の理念を世界に（戦後50年）
 1996年 不戦憲法を安保論議の土台に
 1997年 憲法50年、さらに生かす努力を

信濃毎日新聞

- 1965年 平和憲法を生かす外交を
 1966年 憲法精神の顕揚
 1967年 憲法二十年にあたって
 1968年 憲法の定着と不定着
 1969年 憲法精神の活用を
 1970年 平和主義に徹せよ
 1971年 憲法記念日に思う
 1972年 憲法二十五周年に思う
 1973年 憲法を生かす
 1974年 憲法論議とその高揚
 1975年 憲法と社会的公正
 1976年 憲法公布三十周年とロ事件
 1977年 改めて憲法理念の定着を願う
 1978年 憲法記念日に考えたい一つ
 1979年 憲法記念日に当たって
 1980年 防衛増強論に揺らぐ平和憲法
 1981年 平和憲法の原点を見失うな
 1982年 憲法を平和外交推進の規範に
 1983年 改憲に厳しい監視を
 1984年 憲法の擁護を確認しよう
 1985年 「法の下での平等」を一層確かに
 1986年 人権の擁護を再確認しよう
 1987年 (2日) 表現の自由をめぐって考える
 1988年 小尻記者一周忌の憲法記念日
 1989年 「即位の礼」は政教分離厳しく
 1990年 今こそ「平和憲法」実践のとき
 1991年 平和憲法は二一世紀への指針
 1992年 憲法解釈は厳しくあるべきだ
 1993年 国際貢献で改憲論ずる前に
 1994年 自由の保持に努力求める憲法
 1995年 (3日)「押し付け」論を超えて 戦後50年 憲法精神を生かそう
 (5日) 子供たちに「未来」を託す 戦後50年 憲法精神を生かそう
 (8日) 平和主義を展開する好機 戦後50年 憲法精神を生かそう
 (15日) 戦争のない世界に導く糸 戦後50年 憲法精神を生かそう
 (21日) 新たな権利へ時代が動く 戦後50年 憲法精神を生かそう
 (29日) 全ては「学ぶ」ことから 戦後50年 憲法精神を生かそう
 1996年 「名誉ある地位」を目指す 21世紀へ 憲法精神を踏まえ
 1997年 (3日) 初心を忘れず理想を広げる 憲法50年 新たな半世紀へ
 (5日) 時代への希望を教育が担う 憲法50年 「子どもの日」に
 (18日) 社会保障制度を立て直そう 憲法50年 超高齢社会に備え
 (25日) 平和外交に自信と誇りを 憲法50年 あせぬ九条の精神

静岡新聞（1971年まで「東京だより」・1972年より「論壇」）

- 1965年 (5日) アメリカ非難論者の忘れもの（高山岩男）

- 1966年 (4日)「平和」と「戦争」と憲法 (大井篤)
 1967年 (7日) 男女平等いまだしか (村山リウ)
 (9日) 護憲論者の隠し事 (高山岩男)
 1968年 憲法世論調査 (有竹修二)
 (7日) 極東・太平洋新安保構想 (源田実)
 1969年 ×
 1970年 (8日) 石田最高裁長官の談話 (高山岩男)
 1971年 (1日) 学会会議と偏向の問題 (高山岩男)
 改憲への動き (有竹修二)
 1972年 文化人の奇妙な憲法感覚 (高山岩男)
 1973年 (8日) 憲法擁護論の変調 (高山岩男)
 1974年 ×
 1975年 (1日) 安全保障政策に対する反省 (源田実)
 1976年 ×
 1977年 憲法論争としての平和の問題 (大井篤)
 (9日) 憲法定着の意味 (源田実)
 1978年 ×
 1979年 ×
 1980年 ×
 1981年 (10日) 日米共同声明の防衛的意義 (法眼晋作)
 1982年 ×
 1983年 ×
 1984年 ×
 1985年 ×
 1986年 ×
 1987年 ×
 1988年 ×
 1989年 ×
 1990年 (4日) 憲法九条解釈論争の底辺 (大井篤)
 1991年 時代に適応した日本人の憲法を (江尻進)
 1992年 PKO 法案に憲法論議を (今井久夫)
 1993年 (4日) 連休に考えさせられた“国際化” (山口房雄)
 (5日) 国際新秩序と憲法 (江尻進)
 1994年 (10日) 集団的自衛権と集団安全保障 (栗栖弘臣)
 1995年 (8日) 「占領憲法」に代わる新憲法 (江尻進)
 1996年 ×
 1997年 ×

京都新聞

- 1965年 憲法精神と地方自治
 1966年 憲法精神に徹せよ 薄れゆく国民的関心
 1967年 憲法二十年の実績 よく読み、かつ考えよう
 1968年 憲法は定着したか 第二十一回憲法記念日を迎えて
 1969年 憲法の素朴な見方 目標を生かす国民の努力
 1970年 ×
 1971年 憲法記念日に思う 冷静に思考を尽くそう
 1972年 憲法における権利と義務
 1973年 第26回憲法記念日を迎えて
 1974年 試練の中の「平和憲法」
 1975年 身近なものとしての憲法

- 1976年 「憲法記念日」に考える
- 1977年 国民生活に定着した新憲法
- 1978年 憲法記念日に思うこと
- 1979年 憲法と基本的人権の尊重
- 1980年 風化させるな「憲法記念日」
- 1981年 護憲、改憲論議の渦巻くなかで
- 1982年 身近に憲法を読んでみよう
- 1983年 （2日）憲法週間に人権問題を考える 平和憲法にそう政策の展開を
- 1984年 憲法拡大解釈の悪例つくるな
- 1985年 憲法の理念は定着しているか
- 1986年 「憲法記念日」を風化させるな
- 1987年 新時代へ対応の憲法感覚を
- 1988年 国際化時代に生きる憲法精神
- 1989年 「憲法の日」に国会の姿を問う
- 1990年 議会制百年と憲法の理念
- 1991年 平和憲法は日本の誇りである
- 1992年 「平和憲法」の理念を全世界に
- 1993年 まず日本国憲法をよく読もう
- 1994年 国際社会に憲法を生かす道は
- 1995年 日本国憲法は色あせていない（戦後50年）
- 1996年 憲法精神を生かす安保論議を
- 1997年 憲法をもっと身近なものに

神戸新聞

- 1965年 改めるよりまず生かそう 「憲法記念日」に思うこと
- 1966年 憲法を全国民のものに 記念日の意義を生かそう
- 1967年 「成人式」を迎えた憲法 さらに一層の定着化を
- 1968年 （2日）現実化した憲法の理想 しかしまだ残された課題は多い
- 1969年 憲法を正しく生かす道 国益に沿い解釈に流動性を
- 1970年 憲法記念日に際して
- 1971年 憲法と司法権の独立問題 きょうの記念日に思うこと
- 1972年 憲法記念日を有意義に あらしの中で迎えた二十五周年
- 1973年 新憲法感覚による法解釈を
- 1974年 憲法記念日をこの姿勢で
- 1975年 憲法意識をいっそう生活に根づかせよう
- 1976年 憲法が身についた面と反省を要する面と
- 1977年 憲法の定着化をいっそう深めるために
- 1978年 最近の防衛論争と憲法の解釈について
- 1979年 最近の政治潮流と国民の憲法意識に思う
- 1980年 憲法の“初心”を考えよう
- 1981年 いま、なぜ改憲論議が起こったのか
- 1982年 反核と行革の波の中で憲法三十五周年
- 1983年 いま、何が憲法論議の底流にあるのか
- 1984年 「表現の自由」にしのび寄る危機
- 1985年 平和憲法が世界のモデルになる時代
- 1986年 中曽根政治に憲法理念は生きているか
- 1987年 週のはじめに 国民の暮らしを脅かすものは何か
- 1988年 言論の自由の重みを思う日
- 1989年 「主権は国民に存する」とは
- 1990年 忘れられた憲法の“普遍性”

- 1991年 平和憲法は世界に誇れないものか
 1992年 平和憲法と世界貢献への道
 1993年 憲法は時代に合わないのか
 1994年 第九条を21世紀のモデルに
 1995年 憲法「第八章」を軽くみるな
 1996年 「生存権」こそ深化させ、多角的解釈を(憲法記念日 九条、二十五条、そして被災地)
 1997年 (2日) 憲法精神を被災地から遠ざけるな 憲法施行五〇年に考える 上
 (3日) 憲法の何を改正しようというのか 憲法施行五〇年に考える 下

山陽新聞

- 1965年 平和への寄与を 憲法記念日に当たって
 1966年 憲法生かす努力を 主体的な理解をもとう
 1967年 不断の努力が大事 憲法をめぐる理想と現実
 1968年 (1日) 国民の声を生かせ 憲法に関する世論調査
 (3日) 新鮮な魅力を知れ 平和憲法への取り組み
 1969年 問われる自己努力 「憲法記念日」に思う
 1970年 憲法精神を深めよ 日常生活の指導理念
 1971年 人権意識の社会化 憲法精神に結び付けよう
 1972年 原点からの理解を 二十五周年迎えた憲法
 1973年 国民が守り育てる 厳しい試練続く憲法
 1974年 現実に生かす努力を 憲法記念日を迎えて
 1975年 明るさの底に暗影 憲法めぐる政治状況
 1976年 定着と新しい対応 憲法記念日に当たって
 1977年 これからが試練の憲法
 1978年 憲法記念日に考える
 1979年 憲法感覚を研ぎ澄まそう
 1980年 憲法と防衛力増強論議
 1981年 「憲法記念日」に思うこと
 1982年 憲法記念日に考える
 1983年 最近の政治状況と憲法
 1984年 三十七歳になった憲法
 1985年 憲法は定着しているか
 1986年 憲法と政治を考える
 1987年 「不惑」迎えた平和憲法
 1988年 世界の名誉ある地位とは
 1989年 「戦後民主主義」を考える
 1990年 みにくい日本人でいいか
 1991年 この風潮看過してよいか
 1992年 憲法が求める貢献とは
 1993年 現実の風圧に揺らぐ憲法
 1994年 普遍化したい平和の理念
 1995年 (2日) いまこそ生かそう平和理念 あすの日本を考える 揺れる憲法 上
 (3日) 「改憲」はじっくり冷静論議を あすの日本を考える 揺れる憲法 中
 (4日) 胸張り九条の国際化めざそう あすの日本を考える 揺れる憲法 下
 1996年 (3日) 国民意識を基礎の論議へ わたしたちの憲法 上
 (4日) 地方が主役になるために わたしたちの憲法 下
 1997年 (1日) もっと“出番”を考えよう 21世紀へ望む 憲法施行50年 上
 (3日) 共生へ平和理念広めよう 21世紀へ望む 憲法施行50年 中
 (4日) 国民とともにある論議に 21世紀へ望む 憲法施行50年 下

中国新聞

- 1965年 憲法記念日に想う
 1966年 憲法の精神に沿うて
 1967年 (4日) 戦災者援護を推進せよ
 1968年 憲法意識と国民生活
 1969年 みんなの憲法だから
 1970年 憲法記念日に寄せて
 1971年 ×
 1972年 憲法の原点を見つめ直そう
 1973年 新憲法の地道な定着を望む
 1974年 戦争体験からの憲法理解を
 1975年 憲法は果たして定着したか
 1976年 憲法と地方自治の再確認を
 1977年 憲法施行三十年に当たって
 1978年 憲法理念の定着と課題
 1979年 平和憲法の今日的意味を問う
 1980年 平和憲法の原点に返ろう
 1981年 ×
 1982年 いま改憲の必要があるのか
 1983年 空洞化させてはならぬ憲法
 1984年 憲法をもっと誇りに思おう
 1985年 日本国憲法の世界史的意味
 1986年 憲法軽視の政治風潮を憂う
 1987年 (2日) 暮らしに生かそう憲法40年
 1988年 憲法と曲がり角の総合安保
 1989年 ×
 1990年 憲法43年に思う言論の自由
 1991年 国際社会に沿う「憲法論」を
 1992年 生かしたい平和憲法の本質
 1993年 生かそう憲法の「平和主義」
 1994年 平和憲法の世界化を目指せ
 1995年 憲法を生活の中に生かそう
 1996年 憲法を平和と自治に生かそう
 1997年 (3日) 憲法施行50年 国際社会に範示す平和の理念
 (4日) 憲法施行50年 沖縄を置き去りにした責任
 (5日) 憲法施行50年 平和の理念培う学習の勧め

北國新聞

- 1965年 ×
 1966年 社会保障と憲法記念日
 1967年 二十周年を迎えた新憲法
 1968年 安全保障と憲法問題
 1969年 創造すべきは「合意」「安保前年」の憲法記念日に
 1970年 自主防衛論に疑問あり 七〇年代初の憲法記念日に思う
 1971年 憲法感覚をもっと鋭敏に
 1972年 憲法理念を見直せ 危機の中で迎えた記念日
 1973年 ×
 1974年 ×
 1975年 憲法の番人はだれか 最高裁への期待と不信に思う
 1976年 ×

- 1977年 失われた主権者の自覚 全国民が「憲法」を見直す時
 1978年 満三十一年迎えた憲法 多様化する防衛論議詰めよ
 1979年 ×
 1980年 ×
 1981年 憲法理念いま見詰めたい
 1982年 ×
 1983年 なぜかと問いかねば 現実性を備えてきた改憲問題
 1984年 防衛費のあり方を問え 憲法記念日に強く政府へ望むこと
 1985年 戦後40年の日本と世界 激動の中で迎えた「憲法記念日」
 1986年 進めたい余暇の活用 憲法と日本人の新しい生き方
 1987年 ×
 1988年 「知る権利」との調和を 憲法とプライバシー保護
 1989年 「主権在民」を大事にして 42周年迎える日本国憲法
 1990年 公の観念を確かめる 憲法記念日にちなむ断想
 1991年 憲法に国際貢献条項を 四十四回目の記念日に思う
 1992年 護憲の岸辺に変化の風 45回の記念日に憲法を見直す
 1993年 すなおに憲法を見直そう 国際化の流れに合わせて
 1994年 憲法九条論議を深めよう 続けるべきでない“拡大解釈”
 1995年 国を愛する気持ちは確かか 日本人の資質考える憲法記念日
 1996年 地に足ついた憲法論議を
 1997年 21世紀へ国民的な憲法論議を

南日本新聞

- 1965年 施行十八年の新憲法
 1966年 憲法に国民的関心を
 1967年 二十周年迎えた新憲法
 1968年 憲法の理想と現実
 1969年 憲法の原点に立とう
 1970年 (3日) 憲法と「軍国主義復活」
 (4日) 論議呼ぶ石田発言
 1971年 ゆらぐ「平和・民主憲法」の存立
 1972年 四分の一世紀の年輪刻んだ憲法
 1973年 憲法感覚の変化と政治の貧困
 1974年 憲法にからむさまざまな動き
 1975年 憲法の理想とわれわれの暮らし
 1976年 ×
 1977年 日本国憲法は三十歳を迎えた
 1978年 活発化する防衛論議と平和憲法
 1979年 (2日) “憲法をゆるがす問題”と私たち
 1980年 憲法の原点を改めてみつめよう
 1981年 三十四回目を迎える憲法記念日
 1982年 憲法の便宜的拡大解釈はご免だ
 1983年 「憲法」を読みなおしてみよう
 1984年 37歳の憲法は平和への貢献を
 1985年 憲法は連休に埋もれていないか
 1986年 憲法は軽んじられていないか
 1987年 (4日) 四十歳を迎えた日本国憲法
 1988年 不断の努力で憲法を守ろう
 1989年 しっかり確かめたい憲法の本質
 1990年 根づかせたい憲法の基本精神

- 1991年 平和憲法の枠内で国際的貢献を
- 1992年 激動のいま光彩放つ平和憲法
- 1993年 平和憲法こそ世界新秩序の礎
- 1994年 次世代へ責任ある憲法論議を
- 1995年 世界に掲げたい平和憲法の精神
- 1996年 「9条」を超えてはならぬ「安保」
- 1997年 憲法50年 時を経て新しくなる国の規範

